

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
14	特別展	雪舟	14.3.12～4.7	館藏品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	・社寺・個人所蔵家の作品の調査によって、所在が不明となっていた作品を再発見し、また海外流出の作品の調査を反映して「山水図」(アメリカ・フィラデルフィア美術館蔵)等多数の里帰りを果たしたことによって、従来と同様の展示以上に雪舟の画業の全貌を提示さらには152件という最大規模の展示作品数を実現し、これまでの「画聖」的姿ではなく、「人間雪舟」を示すことに成功した。	毎日新聞社、毎日放送
14	特別展	建仁寺	14.4.23～5.19	近畿地区社寺文化財の総合調査	・仁阿弥道八、奥田頼川を中心とした京焼作品の初出品や靈洞院(塔頭)に秘蔵されていた白隠禅師の書画の初公開は、従来あまり注目されなかった近世の建仁寺の文化的広がりを初めて示したものとなり展示作品の約3割が初公開作品となった。 ・調査によって新たに知られるようになった文化財がその後当館に寄託され、平常展示の充実が図られることになった。	建仁寺、読売新聞大阪本社、読売テレビ
14	特別展	日本人と茶	14.9.7～10.14	館藏品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	・平城京・長岡京・平安京等から出土した最新の考古資料の歴史の意味づけを行い、また絵画・工芸品等の作品についても、近年の発掘調査の研究成果にもとづき、これらを活用して、従来の限られた時代の茶文化にとどまらない、茶と日本人の関わりの全貌を示すことができた。	読売新聞大阪本社
14	特別展	大レンブラント展	14.11.3～15.1.13	本展覧会は、17世紀オランダの巨匠レンブラントの作品を、欧米各国の主要美術館の名品により紹介した。その開催に当たっては、オランダのレンブラント研究の第一人者であるイエールン・ヒルタイ氏(ローテルダム市立ボイマンス美術館主任学芸員)に監修を依頼。主な出陳館には同氏に同道し作品選定に当たった。	・世界14ヶ国、36の所蔵者、全46点のレンブラント作品は全て油絵であり、ヒルタイ氏が図録で、「最初の、そしておそらく最後の機会」と述べるとおり、従来のレンブラント展とは一線を画した世界的にも希有の展覧会となった。	朝日新聞社、シーボルト財団、ヘッセン州学術文化省

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
14	特集陳列	祇園・八坂神社の名宝	14.5.29 ~ 6.30	近畿地区社寺文化財の総合調査	・八坂神社の依頼によって、神社に伝来する工芸品の調査を2年間実施し、特に1654年に奉納された古神宝類の確認調査と、そのデータ化を実施し、これを核に、美術工芸品各分野にわたる作品を展示・公開したが、その大半は初公開であった。 ・調査によって得られた知見・データは図録で公開し、学界に提供した。 ・調査に基づいて初公開された作品の一つ「銅鉦鼓 長承三年銘」は、その後重要文化財に指定された。	
14	特集陳列	国宝・一遍聖絵	14.10.19 ~ 11.10	修復文化財に関する資料収集及び調査研究の実施	・文化財保存修理所を併設するという当館の特性を生かし、修理中にしか調査ができない絹裏の状況を詳細に調査することで、制作過程での図様の改変や裏彩色の状況を把握し、展示においては写真パネル等を駆使してこれを示した。 ・図録にも絹裏の状況を写真で示すとともに、錯簡の復元を行った後の全巻の状況を図版掲載し、以後の研究の基本資料となるものとした。	
14	特集陳列	古筆と手鑑	15.1.7 ~ 2.2	館藏品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	・文献資料に見られる古筆と古文書に関する記事のデータベース化を3年間実施し、これに基づいて「古筆」という分野の作品を、従来の国語学・美術史領域に限られた研究とは異なる新たな立場で検証する展示となった。	
14	特集陳列	雛まつりとお人形	15.2.15 ~ 3.30	館藏品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	・在銘規準作(作者・制作年の明らかな作品)の調査を継続的に実施して、人形の制作年代を明らかにした展示を実施している。	
15	特別展	空海と高野山	15.4.15 ~ 5.25	展覧会のための事前調査 修復文化財に関する資料収集及び調査研究の実施	・修理中に新発見された「毘沙門天立像」の胎内仏の精細な調査の結果、制作時期が特定されたこと、調査によって発見された「秘密儀式灌頂法具」一式の意義が明確化されたこと、高麗の装飾経としては世界で二番目に古い年記を持つ「法華経」8巻が発見され、初公開されたことなど、調査に基づく新知見、新資料が展示に反映され、従来以上に意義深いものとなった。	高野山真言宗総本山金剛峯寺、財団法人高野山文化財保存会、NHK京都放送局、NHKきんぎメディアプラン

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
15	特別展	アート オブ スター・ウォーズ アート オブ スターウォーズ PART2	15.6.24～8.31 16.1.10～3.7	本展覧会は、普段博物館に訪れることの少ない若年層の開拓に寄与することを目的に開催された。その開催にあたっては、ジョージ・ルーカス氏が所有するスカイウォーカー・ランチ(サンフランシスコ郊外)のアーカイブを数度にわたって訪れ、映画「スター・ウォーズ」に使用された万余に及ぶアイテム(模型、スケッチ、衣装、小道具など)を調査、出陳作品の選定にあたった。	・ルーカス氏およびルーカス・フィルムの全面的な協力により、希望作品の全てが許可された。 ・工芸品として認められつつある映画「スター・ウォーズ」の中で用いられた多くの模型や衣装、スチール写真などを、平坦に並べるだけの展示ではなく、様々な工芸品を映像と結びつける立体的な構成を工夫して展示することにより、映画の「動」と工芸品の「静」を結合させる新しいタイプの展覧会を開催することができた。	シーボルト財団
15	特別展	金色のかざり	15.10.11～11.24	近畿地区社寺文化財の総合調査 ・科学研究費補助金「近世障壁画付属の引手金具に関する研究」(平成6年度) ・「近世建築に付属する飾金具の研究」(平成8～10年度) ・「近世日本と中国・東南アジア・琉球で出土、伝世した工芸品に関する製作技法の比較研究」(平成14～15年度) ・日本財団助成「障壁画群の規模・規格による引手金具工人組織の様相」(平成4～5年度) 館蔵品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	・従来全くなかった視点、テーマの展覧会で、科研費、財団助成を受けて、継続的に調査研究を積み重ねた結果、はじめて実現が可能になった。 ・祇園祭など各地に伝承された曳山の飾金具の調査成果も踏まえた展覧会である。 ・「金銅七宝装神輿」(滋賀県常喜町蔵)「金銅五七桐紋釘隠」(個人蔵)など、調査で初めて見いだされた作品を多く展示し、学界からも注目され、展覧会の企画・図録執筆に対して、「平成16年度倫雅美術奨励賞」を受賞した。	
15	特集陳列	中尊寺経	15.4.23～5.25	・科学研究費補助金「金剛峯寺蔵中尊寺経を中心とした中尊寺経に関する総合的研究」(昭和63年度・平成元年度) ・科学研究費補助金「中尊寺経金銀字経に関する総合的研究」(平成6～8年度) ・科学研究費補助金「中尊寺経を中心とした平安時代の装飾経に関する総合的研究」(平成13年度～16年度) ・3700巻余の調査を実施した	・調査によって紺紙に金銀字を交互に書写した一切経の実態を明らかにすることができ、見返し絵も変化に富んだ図様を持ち、様々な画題で飾られたことがわかった。 ・これに基づき、代表的な見返し絵を持つ経巻20巻、黒漆塗経箱1合、巻紐を展示・公開し、龐大さのために把握が困難であった中尊寺経の特質をコンパクトに紹介することができた。	
15	特集陳列	「新撰組」「坂本龍馬」	15.9.4～10.5	館蔵品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	・東京都日野市との新撰組関係資料についての共同調査を2年間実施し、土方歳三・佐藤彦五郎等新撰組隊士関係の資料が初めて明らかにされ、これらを中心に展示・公開し、新撰組の実態をより明らかにすることができた。 ・調査の過程で、長年行方不明であった坂本龍馬書簡が2通再確認され、現物を初公開することができ、今後の龍馬研究に進展が期待される。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
15	特集陳列	宸翰 - 天皇の書 -	15.12.23 ~ 16.2.1	館藏品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日記、文書、詠草、懐紙、教典、画賛、額字など多様な宸翰の調査を実施するとともに、文献資料にみえる宸翰に関する記事のデータベース化を実施し、その全容をとらえることを企図し、その報告として、従来とは異なり、「書」という新たな視点からの展示を実施した。</li> <li>・調査の過程で、恵琳の作成した重文「法華経」が、各所に分蔵される後深草天皇消息と一具であることを明らかにして展示で具体的に示し、この研究成果が新聞の一面に掲載された。</li> </ul>	
15	特集陳列	十二天画像と山水屏風	16.1.4 ~ 2.1	館藏品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクロSCOPEを用いた細部の調査と研究、赤外線撮影等の光学機器を用いた調査等により、各作品の技法・様式上の特徴を明らかにし、その成果を公開した。</li> <li>・展示においては、十二天画像と同時代の平安後期の仏画である「釈迦金棺出現図」(国宝・館蔵)や黄不動(曼殊院蔵)などをあわせて展示し、関係作品との比較により、それぞれの特色を具体的に理解できるように構成した。</li> </ul>	
15	小特集	京焼の源流 - 華南三彩		科学研究費補助金特定領域研究「江戸のモノづくり」公募研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内はもとより、ベトナム各地において実施した現地調査(考古資料・伝世資料の調査作成)によって「施釉技法(釉薬のかけ方)」の共通点が初めて明らかにされ、これをわかりやすく展示・解説した。</li> <li>・このほか、中国南部及びベトナムとの製作技術の類似点を明らかにして、京焼との共通点を明らかにする展示を初めて行った。</li> </ul>	
15	特別陳列	雛まつりとお人形	16.2.14 ~ 4.4	館藏品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在銘規準作(作者・制作年の明らかな作品)の調査を継続的に実施して、人形の制作年代を明らかにした展示を実施している。</li> <li>・本展示の充実を感じられたという方から、展示期間中に作品の寄贈の申し出が6件あった。</li> </ul>	
16	特別展	南禅寺	16.4.16 ~ 5.16	展覧会のための事前調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・南禅寺本坊及び塔頭十数ヶ寺の悉皆調査</li> <li>・南禅寺関連の社寺・個人所蔵家の所蔵作品の調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査により、肖像画・書跡・工芸の分野で新発見の作品が多数あり、これらを展示することにより、従来以上の深まりを持って南禅寺が理解されるようになった。</li> <li>・従前なかった南禅寺所蔵の禅僧肖像画研究に大きな成果があり、これを図録に反映した。</li> <li>・これまで注目されてこなかった三門に安置された彫刻類を調査し、その系統だった研究を行い、図録・展示に反映した。</li> </ul>	大本山南禅寺、朝日新聞社、朝日放送

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
16	特別展	神々の美の世界	16.8.10～9.20	近畿地区社寺文化財の総合調査 展覧会のための事前調査 ・京都府神道青年会の協力による京都市内神社の悉皆調査 館蔵品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	・5年間実施してきた社寺調査で賀茂別雷神社・北野天満宮の悉皆調査及び展覧会の事前調査として実施した石清水八幡宮はじめ6社の悉皆調査の成果をふまえ、これまで知られていなかった神社の文化財を多く出品した。 ・なかでも黒漆諸尊金銀泥絵八角宝珠箱・金銅三鈷杵(石清水八幡宮蔵)など、全くの新発見文化財が初公開され、新聞記事にもとりあげられた。 ・調査により神社との信頼関係が築かれ、秘蔵されていた数多くの神像の初公開が実現できた。	京都府神道青年会、産経新聞社、関西テレビ放送
16	特別展	古写経	16.10.19～11.28	展覧会のための事前調査 ・科学研究費補助金「敦煌写本の書法と料紙に関する調査研究」(平成8～10年度) ・科学研究費補助金「敦煌写本の書誌に関する調査研究 - 三井文庫所蔵本を中心に - 」(平成12～14年度) ・科学研究費補助金・特定領域研究「東アジア出版文化の研究」(平成13・14年度)	・大英図書館・フランス国立図書館所蔵の敦煌写本の調査、三井文庫所蔵本について実施した館蔵の守屋コレクションとの比較・精査等の調査の成果を基にして、慎重に作品選定を行い、学術的な意義付けを確実にした17件の敦煌写本を展示した。 ・特定領域研究により高麗写経の調査を実施し、これに基づき6件の作品を選定、展示し、日本の写経との関連をより明確に明らかにした。	
16	特集陳列	「南禅寺一切経・秘蔵註」	16.4.6～5.16	科学研究費補助金・特定領域研究「東アジア出版文化の研究」(平成13・14年度)	・韓国・湖林美術館と湖巖美術館所蔵の高麗写経と高麗版本の調査を実施し、その結果もふまえて、南禅寺一切経のうち、高麗版初彫本の「御製秘蔵註」19巻の見返し絵の性格について、中国・北宋の影響を受けた高麗時代の細密な山水表現であることを明らかにし、これを一堂に初公開した。	
16	特集陳列	「描かれた古器物」	16.5.19～6.27	館蔵品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	・歴史資料のうち、従来余り注目されなかった拓本・模本類の調査研究を継続的に実施し、その結果、資料としての重要性が認識されたものについて初めて展示・公開した。 ・特に従来知られていなかった明治14年の古墳調査記録は、学史上貴重なものとの評価を得、新聞記事にもとりあげられた。	
16	特集陳列	「正倉院裂復元模造の十年」	16.8.21～9.23	館蔵品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	・近年注目されている織組織について、継続的に実施している館蔵品及び寄託作品の調査の成果をふまえて、顕微鏡写真や織組織の模式図を用い、正倉院事務所と共同し、わかりやすい展示とした。	

年度	区分	展覧会名	開催期間	関連する研究名	調査研究の展示事業への反映内容	備考(共催者等)
16	特集陳列	「国宝・親鸞筆 教行信証」	16.11.2 ~ 11.28	修復文化財に関する資料収集及び調査研究の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当館に附設される文化財保存修理所で実施された修理の際に、「教行信証」の書誌学(冊子等の体裁を考える学問)的調査研究を実施し、基本的な情報を収集した。</li> <li>・特に修理に際して行われた冊子本の解体は絶好の機会であり、その際に各丁ごとに細部の調査を実施した</li> <li>・これらの調査をふまえ、各冊に特徴的に見られる書誌学的調査の成果を展示・公開した。</li> </ul>	
16	特集陳列	「高台寺蒔絵と南蛮漆器」	17.1.2 ~ 2.20	近畿地区社寺文化財の総合調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社寺調査の過程で建仁寺に「秋草蒔絵手拭掛」の存在が明らかになり、展覧会に出品するとともに、寄託をうけることとなった。</li> <li>・館藏品及び寄託品の調査研究を継続してきた結果を受けて、展示・公開した。</li> </ul>	
16	特集陳列	「仏像と写真」	17.1.2 ~ 3.20	館藏品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の平常展示とは異なり、実物作品と文化財写真を併せて展示することによって、「文化財写真はかくあるべき」ということへの理解を深める機会となり、これまでになかった新しい企画として新聞等で高い評価を受けた。</li> <li>・展示に用いたものと同等の質の高い写真による図録「仏像と写真」を刊行した。</li> </ul>	
16	特集陳列	「伊藤若冲」	17.2.16 ~ 3.27	館藏品及び寄託作品、周辺文化財の継続的調査研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成12年度に特別展覧会を開催し、この展覧会を契機として所蔵者等からの調査依頼が増加し、特別展覧会以降に発見されたり、寄託された作品が多く、これらを中心に展示・公開した。</li> <li>・そのなかで近年発見された「乗興舟」の版木を、作品と共に初公開した。</li> <li>・この特集陳列を契機として、「乗興舟」の全貌を初めて紹介した「伊藤若冲 乗興舟」を刊行した。</li> </ul>	
16	特集陳列	「宸翰 - 文字に込めた想い -」	17.3.2 ~ 4.3	近畿地区社寺文化財の総合調査 展覧会のための事前調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日記、文書、詠草、懐紙、経典、画賛、額字等の多様性のある宸翰の総合的な調査を実施し、社寺調査・事前調査等で新たに知られるようになった宸翰を収集し、総合的に展示公開した</li> <li>・宸翰を網羅的に収集した図録「宸翰」を刊行し、筆者・発給年代・人名等に着目した新たな視点からの研究で学界に寄与した。</li> </ul>	